退食閒話

ロ13
857

門 波13
號 857
卷

會澤先生述

退食閒話

御藏板

歷代藏書

退食閒話序

天保戊戌。我納言公創弘道公館。勒記於石。言所以教士臣民之大綱。臣安以謭劣。辱蒙恩命。與青山延于同紗教職。日登館而從公事焉。俄陋之學毀瓦畫墁。雖無涓埃裨補。而其志則欲少有所維持名教。退職之暇。与客樵接。童蒙或求於我。新舊諸友。亦或時來閒話。移晷秉燭。語歷及

國立公文書館 内閣文庫

於我　公所以設學之意也。一日安侍讀。
公從容謂曰。曩作弘道館記。默喜義多端。
記文之體不可以詳悉焉。今汝與延于等
議。解以俚俗之語。使初學及不識字者。亦
得覺其梗概。安唯〻而退〻而自省。固茲
偏僻。何足以稱道盛意〻萬一也。默爽
命之重。不可以辭。乃與延于等議。各述所
見。以供採擇矣。因取曩日与諸友及童蒙

言。錄為小冊。以塞其責。迂闊之論。雖無
益。而瓦礫之物。亦未必無所用焉。夫道
若大路然。出於天經。存於民彝。五品分
有五教。百姓日用而不識。能無筆之。而人
自求之。必將有師也。然而大訓不用。則
榛荊生焉。五教不敷。人或不能自求焉。
故道不弘人。弘之在於人。若夫一其治與
教。以弘斯道。明賢相之所為。安知不

才。謹ず其職。以て聲教之決於斯人矣。壬寅季冬。會澤安識

退食閒話

會澤安謹述

余弘道館より退き机に憑て書を繙せし折一人来て閒談を語次教學の事に及ぶ其人問て云今度國に學館を設け弘道館と名つゝ記文を碑に勒して其大意を喻し給ふ某拜誦して頗る盛意の萬一を曉りしやうなれとも其詳なる事を知り得ん願くは其義を委曲に解喻せられよ答曰某不才にして猥に教職に命せられ候得ども學術淺陋にして其任に堪ぬとさきぬも一日にても教職を瀆し居ん人に吾子の問に答へさらむも本意なきに敢て愚

説を是ありやとするに非されとも即ち管見の及ふほとの事ハ告申奉り吾子又廣く有道の君子に就て愚説の當否を質されと

客曰さきハ一二の疑義を問申奉り先人能弘道との経語の意ハ道ハ性中に備はるものなれハ己か心を以て己か性を盡して道を弘むるも義と承はるも然るに弘道館の記に心性を説給はる師説と異あるに似たるは何ぞや

答曰中庸に率性之謂道脩道之謂教と申せハ道を脩て性に率ふハ勿論なりされとも是は道の立たる本を論して詞なり道を弘むるハ本は性に率て立たる道なれと

も是を人の所業に引て天下に推廣むるの義なきハ道の本を論するとハ其指の異なり後世を學問し士庶に くありて道を論するにも一身の上のみに目をはけて己か心性を治むるを道と為へきも古の道ハ記中にも載給ふる如く道は天地の大經にして天地に生るハ自然に人倫備り人倫あれハ自然に五典の道備はり故に父子に親あり君臣あれハ義あり是皆天下の大道正路にして一人の私言に非すして聖賢上にあれハ政教を施して道を天下に行ひ下にあれハ言を立て材を育して道を後世に傳ふ道は大路の如し衆人の往来する所自然に

道路をあけ道を弘むるも自然は道路に隨て旗亭をた
て廬舍を設け擔夫駄馬を置四海の隈までも往反滯ふ事
なからしむるもとくふ以て天下の人をして人倫の大
道に由らしむるを〻ふ是皆人力のなす所なれを聖人も
人能弘道とハ仰なられ〻ふなり今弘道館をは設け給ふ
も天地自然に倣ふる大道明らかにして衆人の往反
滯る事なく多岐に迷ふ事なからむと志し給ふい即
ち人能弘道の義なる〻し大道既に明らかにして士民皆
むふ所を知り曲學不經に迷ふ時を人人自ら己
が性を盡さむ事も各才德の長短にうして其人は長ま

所を成就する事を得へきかと存し候なり

問上古

神聖天下の基を艸創し給ふる時等の事を記しなるを
古事記日本紀古語拾遺なとなきとも何ぞ書みし人倫
の道なりや説給ふるなりを見へ侍らは記文に生民不可
須臾離者也と記し給へるハ人倫の道を指し給ふるなり
ふく然るを
神聖の極を立給ふハ斯道に由らさるなし載給ふ事を
何ぞ乃義なく候やや
曰神代の事實後輩晩學の某猥に喙を容さ候ふも尤も

恐き憚るべき事なれとも聊所見我述て只今吾子の問ふ
答へ且大方君子の是正を乞申て上古淳朴の世ハ
神聖の彝訓を垂給へるも言語を以て教へ給て行事を
因て其義を示し教ハ其中に寓して萬民の法則なり
給ふ故人乃五倫ハ父子君臣夫婦長幼朋友の五品にて
是ハ五典とも申なり第一君臣の義と申ハ
天照大神高天原にましまして
皇孫天津彦瓊瓊杵尊に
天位を傳へられしとき八坂瓊曲玉八咫鏡艸薙劍三種の
神器を授給ひて葦原千五百秋之瑞穂國ハ是吾子孫可王

之地也と宣ひしとき此神器を以て永く
天位ハ信と共に給ひ是より君臣父子の大義著明
天位の尊き事天地關帝し初より今日に至るまて一人も
天位を犯す事なく四海の外萬國多しと雖
も如くの如くなる能てなきに免し故ハ即君臣ハ義に
て言語ハ教ハ其教自然に備れる故に父子の親と
申奉
天照太神神器を授給ひし時御手に寶鏡を取給られ
て吾兒視此寶鏡當猶視吾と宣ひしとき床を同くし殿
を共にして寶鏡を以て

天祖の神主と申し給ひ是より父子の親顯はして
天日嗣を受継せ給ふ君を必ず
日神の御末なり〳〵神代の古より今に至るまて
皇統易らせ給はず寶鏡を
天祖の神より永く伊勢に安置
日嗣の君
太神宮を拜し給ひて寶鏡を照し給ふ御容即ち
日神の遺體なれば王體ハ即
日神と同體なり萬億年とつくとも同體乃親子
盡させ給はさるを父子の親是より惇きハ乃し天地の始

伊弉諾尊好哉の歌を
伊弉冊尊の先たちて唱給ひ其時より夫婦の別明か
なり
伊弉諾尊伊弉冊尊天の浮橋にて
天照太神月夜見尊素盞烏尊を生給ひし時
天照太神ハ高天原を治せ〳〵月夜見尊ハ夜の食國を治
せ〳〵素盞烏尊ハ滄海原を治せ〳〵と任し給ひしハ兄
弟の序なり思兼手力雄兒屋太玉建雷猿田彦等の諸神心
を同じて

天神を輔翼し奉り友を以て仁を輔けしハ朋友の信を申
すりかくのごとく五倫の教ゑ天地の始より立て今日ゑ
至るまゝ人こゝろの君臣父子夫婦兄弟朋友の道を離さ
て世ゑ居ゑ事あるときにきれハ今も仰き奉る
至尊ゑ　大将軍ハ數百年の亂を
天照太神と同體ゑ　東照宮の御嗣ゑて
平ゑ萬民を安んし給ひ
天朝の政を天下に布て民なして兵革盜賊等の憂をまぬ
かれしめ給ふ邦君も　天朝の藩屏　大将軍の分
職ゑて各其國を治ゑ給ふ今此海内ゑ生きて臣民の數ゑ

備らんその誰か　天子ゑ　大将軍と邦君との恩
澤を蒙らぬるものゆゑんやされハ人各五倫の道を盡し
て國恩の萬一をも報し奉るゝと志ん事誰か其道を離
れ得へきや記文ゑ
神聖の斯道ゑ由れしゝ載給へるハかゝる意味ゑ侍ら
むなと存し奉るなり

問　寶祚以之無窮。國體以之尊嚴。蒼生以之安寧。我
狄以之率服とあるも別の言ゑまりて粗解し得へきやう
なれとも願くハ其詳なる事を聞ん

曰　寶祚の窮り無き事も前ゑ書る如く

天照太神三神器を授給ひて君臣の義正しく寶鏡を吾を
視る如くせよと宣ひしより父子の親惇く忠孝の教二ツ
なうして全く是よりて人心一定して他に移らず千萬世
以経といへども太初は君と仰き奉り
至尊かもらせ給ふ今日仰ぎ奉る所乃
至尊も即ち
天照太神と同體なるは世人情風氣も自ら厚く
して
天位を覬覦する人もなし　寶祚窮りなきもまた尊
むべきにあらずや　國體の尊嚴なる事は四海の外に萬

國多しといへども天地の間に至て尊きものは只一ツなる
うへに好き道理なる然るに外國にて其帝王と稱するも
のも其種姓もそれ遷り易りて　天朝の如く
皇紡綿緜として唯一體のみなるべし　侯事は萬國にも
とへて好き事なりかゝ不免てあるべしも其本は天地
の始よりして君臣父子乃大倫正しくして人情風氣厚き
なるゆへかくのごとく萬國に勝れたる好きも　國體も
是よりて尊きに非ずや且蒼生の安寧なるも古は異端
邪説といふ事もなし古言に唯神とは前なるゝ如く
神明の教のみにして君臣父子の大倫亂れざりしかも

異域ゴ五胡十六國ナドいふる如き大亂ハ曾てあうりしなりされとも一治一亂ハ天下の常なれハ太平久しく
して縉紳宴安ゴ溺ル　神聖の教衰へて君臣父子の道正しうして保元平治の亂
ありて　朝威衰へて壽永承久元弘建武等の亂ありて
四海鼎沸を是ゴとして戰鬪暫くも止ず　東照宮禍亂
を平ぎ給ひしより民始て干戈を免ル其父母妻子ヲ養い
安穩ニ身を終る事を得ル　神明の教正しく君臣
父子の大倫斷滅せざるゴとして天下の亂も遂ゴ正しき
ゴなりて蒼生も安寧なるゴ非ずや夷狄の率服せる事も

皇太神を祭りし祝詞ゴ遠國ハ八十綱打かけて引寄るゴ
あるゴとあるゴ如し素盞烏尊新羅ゴ渡り給い　崇
神天皇の御宇任那の人帰化しまゝ神功皇后三韓を征伐
し給ひしより西蕃服從し　景行天皇日本武尊を
して蝦夷を征伐せしめたまひより　桓武平城嵯峨の御時
ゴ至りてハ坂上田村麿文室綿麿等の名將を得て終ゴ蝦
夷を海外ニ逐退けて東地静寧なり中ゴも　成明天
皇の御宇ゴハ肅慎ゴても征伐して威を遐方ゴ震い給へ
り其後女真蒙古等の冦亂ありしも深患をなす事なくも
ゴ豊太閤ハ朝鮮を伐て威を海外ゴふるゴまことなりさて又

夷狄の道を以て　神明の教を害する事も天竺の道
神州に行はるゝより民心始て純一あらずして又西土奢麗の
風　神明の邦に移りて堂塔を作り田園を寄附しに
きろ為に天下正税の半を絶ると古人もいへり如く終
に四海困窮せり延暦興福園城寺等の僧徒強訴して
をきれハ　天闕を犯し他國にも一向専念の徒横行
して加越歴世の邦君も是ら為に滅亡せ長島石山等の一
揆に織田殿の英明にて大に手を摧き土呂釘崎の
亂に参河武士の忠義の名を天下に得らるゝ君父に對
して弓矢を執り西洋の邪徒来りて及むとせ詭術を以

て民心を迷し　神明の邦を變じて狡夷の属とせん
ことを謀る然るに織田殿山門以下諸國の惡僧を討ち平
ぎ西洋の姦謀を覺り邪徒をも卻ぎんとせ豊臣家邪徒を
海外に逐ひ退ぎ　東照宮に至りてハ邪徒の禁つよ
厳なりて其後寛永の時に至りて盡く是を殄滅して遂に
其根柢を絶給ふ此殷外夷も傳聞て曰日本人有三眼とて
震ひ恐ぎしとあり是又　神明の教正しく人倫の道
も天地の間に廢ぎへうゝさる自然の大道あるにより
再ひ正しく切道に反り夷狄も率服せ道理にあるにや
然ぎハ　寶祚の無窮　國體の尊厳蒼生の安寧戎狄

の率服何ぞも空言なるに其實事なれなり〳〵あり
問唐虞三代の治教資以賛　皇猷と有之候へとも西
土ハ文を尚ひ　神州ハ質を貴ひ候風俗ハ各異なる
所有之を西土の俗と混淆〳〵候ものゝ〳〵ハ古の淳素
の風を失つると申說も有之ハ如何
曰天地の間ハ大道ハ一〳〵二ひ〳〵無之候質と文とも
車の兩輪の如く偏倚無之を大道と申〳〵故ハ孔子も文
質彬彬然後君子と仰られ候　神州の質なるを西土
の文を以て助るハ即取於人以為善と云へる義なり
て文ハ文の弊なり質ハ質の弊ありて文質彬彬と云

つとも實事ハ施す事ハ至て難かるへしされとも　神
州の質も西土の文も五倫の大道ハ於ハ毫も損益なへ
ふして但　神州ハ前に申ふ如く五倫の實ハあれと
も五倫の名なき弊ハ人其實を知ふを得ス堯舜孔子
の立給ふる名ハ　神州の本なりける處の自然
の實を知る事を得る即賛　皇猷ありて治教と申
ハ治ハ國家ハ治ふの法度政令なり教ハ禮樂教化ハ
ハ法度制令なり〳〵禮樂教化ハ手足の働ありて心
性の本なるハ〳〵禮樂教化ありて法度制令なれハ
心性の本なりて手足の働なるハ〳〵治と教ハ備ふ

もハ治も苟且の治なり教も死物となりて用なきに
神州の治教ハ其本立て是を働らかしむる道具なり西土
の治教ハ其本を論ずれハ君臣の義なりなれハ
神州にもなきにあらず所あれども其道具備はる故に是を資
とし　皇猷を賛けんにハ斯道愈大に愈明なるを
義理にして是を文質彬彬と申つるなり
問中世以降異端邪説誣民惑世俗儒曲學舍映從彼とある
ハいかなる事に候や
曰天竺西洋なとの邪教の害の如きハ前に論ずるなれ
ども世又知る所なり誣民惑世との事ハ人民ハ人倫の道を

盡すの外なきと事なるを眼前の人倫に父祖と已と子孫
ゆの三世ハ即既往當今將來なる事を知らに三世の説を
設るなり君父をも後今といひ自然に息義なるを
なりのみ忠孝の道も軽くなり又本地垂跡の説おなるを
赫赫たる　神明を胡鬼の分支餘裔のなりなる説か
し民をして　神明を瞻仰するの心を他に移さしむ
天無二日土無二王と申さるに至て尊き物ハ二りなる道
理なるに巧辯を以て國中に萬乘の君より尊く太初の
神明なりも尊き物ありと説なして萬民の心を蠱惑を是
誣民惑世の甚しきに近ずや俗儒曲學舍映從彼との義

し戦争の世は讀書まるは五山の僧なとまれり有り元と
り僧徒は外國の異端を學ひしかへ　國體をも忘れ漢
土天竺はかりを貴き國なりとなるの事も行やしむる足き
近世はいとりて物徂徠の徒のなかく唐土をも中華中國
なりと稱し自分を日本東夷なと稱する類なり是　神
州乃臣民敢ていふるき所はあらしに新井氏なと關東を王
と稱せしなり　天朝を宿公の如く申奉るも西土の
名號はあつかるく　東照宮の　皇朝を尊崇し給へ
る深意はなるふかり物新二氏いまも豪傑の士はしく
其あらませ野所の書も世は益なるもの多しといへり

舎此從彼の病は道るいとふに又　皇國學と稱しく
神州の尊き事を稱揚し奉るは卓識ともいつへき處あり
く大は人心世道のうえは益とあるへき事も少からに舎
此從彼るとはいふにして其功の大なる事もあると多くは
治教の大體を知らにして
神聖經綸の道は闇く人倫の天叙を外まして私を以て一
種の說を設け人道を牛馬は同しく老莊墨翟なとの意は
近き自己の偏見を執りく堯舜をも譏議し大人は狎は聖
人の言なを侮りく　天朝みるも資とし　皇猷
を贊を給ひし深遠の意を容さる事あるは至ては又舎此

従彼の徒に近こうて又文墨の藝の如きも道を尊び教を施す筋所もあるべき事なれども神聖の大道を高閣に束ねて浮弄の虚文をハ亂い風流に身を委ね世を嘲り自らゆるして逸樂に任せて身を終るの流に至り又ハ荘周等の流におちいり自らゆるしまるの徒にして仁人君子の道にはなれ又経済學と稱するもの國家の事功に益なりといへども其末流ハ近効小利に趨りて一己の私智を恃みて聖賢の大道に本づかれハ利を先にして義を後にするの害ありて又自己の脩身のみ説て報國愛人の義もなく民人社稷

を餘處にまつる類も身に本はなく己れ意を善にとも揚朱の道に近く庶人の行にして士大夫の道にはなれ其弊に至りてハ乳臭の児も高妙精微の論をなして實用に遠く事業に施す事を知らず又考證の學といへるの古説誓て後世の惑を辨ず古訓に據りて経義を説きて学者に益あれども其弊をいふにハ務て新奇纖巧を競い聖人の大業盛德をハ論ずるに足らずして無用の辨に歳月をけいやし帰する處ハ堅白異同の説に沙汰して實事に益なし人を誤て聖賢の書をハ席上の翫物とはなしむるにいたる又近世蘭學といへるの世に行るる其本を譯官の和蘭談を

翻譯せらるゝのみなりて世の害となるに是よりして海外の事情をも審なりて或は其藝を取て國家の用を助くるふ事もなるべけれども聖賢の大道を知らざるもの胸中に定見もなく徒に蘭書を見て新奇の巧辯を悦ひしらず窮理と稱して一草一木禽獸蟲魚等の空理を穿鑿し人の支躰を屠り天地に陰陽動静の活意なる事を論じ器玩に均しく死物とせず其甚しきハ國家に嚴禁せらるゝ西洋の邪教をも窃に信じて其教實ハ邪説にあらずと憚らずして口舌を振い愚民を迷はす兵書を以て人をして敵の美を説かしむる事なりとなす國家かねてより外虜の防禦を嚴にせらるゝ深意をも憚らず民心を移動して陰に外虜を尊信せしむる術をなすハ國家の姦民なりと稱すへしなりかくのごとく学士書生の論せる所さまゝに異同の説ありて各其長せる所もあれとも其本を失ふて神聖の大道に明らかなるハ捨以從彼とするに至るもの又多し經語に雖小道必有可視者。致遠恐泥。是以君子不為也。といへとも農圃醫卜のみを指せるものなりしかくのごとく大道に本ほうのみして偏見私説をあるもの皆小道なれハ遠をつとめハ必に泥む是既に道あるさきハ異端邪説俗儒曲學の流弊の害の頗る多きにより

て義公の御詞なる一偏なる固執なるものを儒中の異端なりと仰せられしもり然るハ今度公の世の惑をさらに大道なる本はきて識見既なる開きて其本既なる立其政を誤らざるなハ前なる舉る所の曲學の徒のなる業ありとも其好むなる任せて是を学ひ各其長なる所乃材を成就し國家乃用を成なる至りてハ何ぞ害なるむや小道といふも大道中の小道ぬきハ其本を失ふ事なるむなる大小道並ひ行なれて相をとらざる事なり本文なる中世以降なて東照宮撥亂反正の跡前を指されハ文のやうなれとも前なる舉らざる國家の大害となるつき條なて廣く論をらざるなて前後の文なる混むつきなる有られ今の世みいなるなて曲學邪説の大概を舉て吾子の問なる答るなる

問　東照宮亂を撥し正なきなる反し給ふなとハ児童走卒の知る所なきハ論なるなる及なる尊　王攘夷とハ何れの事なハ指し給つるなと於や

曰　東照宮恭儉の德なりて富四海に内を保ち給へとも勢を恃給なる屢京師なる朝して君臣の義を正なり給ふ兵亂の世なりて　至尊なり公卿太夫なる至るまて萬事覆乏なる困しみ給ひしなる禁城の狹隘なりしなる増

擴ありて脩理し給むしかり供御の田を増進て供給闕る
事なく秘籍寶器の亡失さるを御座る返し納免令官の
職を失ひしも先職を復せしめ　朝廷の法制故撰述
きられ伊勢
皇太神宮二十年改定の期古法をうしなひ永制を立
給ひ又亂世ゆえ　朝廷財用ゆたかなる御即位大嘗會
等の禮も行ものれ僅る大内氏毛利氏ちとの其料を調進
き事なりしのみなり織田氏豊臣公の時ないとりて其
料かくる事あくかりしかども　東照宮ゑ至りてハ益
朝廷を尊ひ永世ゆえも大禮行ものれ其後義公の撰述きら

まし禮義類典を進獻なりしかり禮義全備して　幕府
もりも其料故調進ありしかも曠代の廢典全く再興して
御代ことゑ行ものるし事とハなりしかも承ふ是等の事皆
尊　王の義と申奉るべきあり又治世ゑ亂を忘れ給
ものに常ゑ子弟ゑ訓戒し給ふゑ日本太平すして武道怠
る時ゑ異國より日本を伺ふ故異國亂ゆえと聞ハ武道の
達人を撰むて是を押へさせゑ日本の中孤軍ハ勝負とも
に其一家斗りの盛衰なり外國の爭ハ負なる時ハ日本國
の恥辱なりと深く戒ゑ給ふゑ依りて西洋の邪徒
神州を伺ふ事も深く察し給ひしかも其禁を甚厳なり

給ふ　　岩徳大猷二公も御志を継きられ寛永の年中て
は盡く誅戮ありて永世の禍根を絶給ふて國家の武威の
外國に震ひしは是皆攘夷の義と稱し奉る事なり
間古来賢哲多れ中に威公は獨り日本武尊を欽慕し給ふ
事はいとゝ切なる故なて候つるや
曰威公の欽慕し給ふ御主意書傳へしものなきは何
の故ある事を存し奉らず然れとも愚意を以て窃に推考
するに蠻夷滑夷と云は虞帝の患る處なり古海内の我狄
民の害をなせし熊襲隼人の類も亦れとも其勢の強大な
るまと蝦夷に比くらべなり常奥二野越羽の地に充滿

して良民一日も生を安むきを日本武尊も　景行天
皇の皇子なして英武絶倫なり草薙の寶劍の神威に伏く
常奥の蝦夷を征討ありて　皇威を奮たれしなり
て世に夷狄を攘斥きられてはなる蝦夷の禍永く息しあ
り威公も　東照宮の御子孫なして英武超絶して常陸の
地を領して東地を鎮撫し給ふ然れは日本武尊の功烈あ
ふ如く永世まて　天朝の藩屏として夷狄を鎮撫
し給んとの雄志を奮ひ給ふなり發きましやと察し
奉るなり況や吉田神社は日本武尊を神と祭り名神の大
社なして大城に密邇き遠く日本武尊の徳を慕ひ給ひて

遺志を奉承し給んと追慕思ひ給ひ宗社の鎮護とも生民の大幸なるべしさきハ公の欽慕し給ふも實事おおいて感し給ふ所あるべう是よりして神道を尊み蠻夷の左道を排し武威の衰へさるやうにし兵備を繕ひて戎狄を攘ひ給へきの手當とも思ひ給ひ何れも實事を施し給ふの御志より發さるる事とも思ひ學生書生の徒ハ其氣象言語等のみを稱ふる如きを非さらんかと存し奉るなり

問義公十八歳にして伯夷傳を讀給ひ感發されしより学を好み脩史の御志も立て讓國の義をも成し給ひし事を人々の知る所にして是に依りて更に儒教を學ひ人倫を明にして名分を正し國家の藩屏たるべきを思ひ給ひしハ也

もあるべき事にて候へとも威公も日本武尊を慕ひ給ひせらるる義公も伯夷傳を感發されし孝ハ志を継と申候へとも日本武尊と伯夷と氣類も同しかるに存候へハ威公の御志とも異なる所なるべく候や

曰日本武尊と伯夷とハ同しかるべきやうに候へとも其時ハ御兄なるべくして其實事ハ未だ感し給ふハ一徹なり義公ハ御兄なるべくして世子なる立給へハ夷齊讓國の義を感さらさるも其實事よりして感發し給ひしなり是にをりて學

と好み給はしし聖賢の道を學い得て實事を施し給そん
ちはをはれハ此道を深く尊信し明の義士舜水先生を師
とし事へて弟子の禮を執り給ふ脩史の事も其本も大義
を天下ニ明らめすして天下後世まて人倫を明らうをき
むとの大志より發し給ふいつのまも儒生なとの紙上ニ空
論せる如きれ類まそあらしれ依て聖人の教を尊崇し給へ
るも修己治人の道を事業ニ施し士民を教導し給ふ條目
ニ載らましるる五倫を以て本とし史を脩給ひしまそ神
功皇后を妃ニ列し　天皇大友ハ本紀ニおいて壽永建
元の　天子を正統とし給つるの類ハ天下後世の人

臣ハ大義を誤らさらむるハ人倫を明らうをき
るの實すして筆端れ空論ニ行れ如此まして國家の藩
屏とあらきられ天下ニ大益なるハ是皆其實事ニして威
公の御志を継給ふ所なりしまそ神道をも學ひ神宮寺本
地佛なとつくる陋習を除し唯一の神道とし給ひ吉田神
社をも再興ありて日本武尊を慕きられし遺志を成就し
武備をハ繕充らるいまも大義ハ明らうまし名節を磨勵
して心膳ハ練り給ふ一切とまして威公の志を継き述給ふ
まあらはるまあらかくのまりに卓見すしはきしぬへ國
中を風化し給まんかて其頃まそいつまく學校といふ事

も世に希なりしに學校を立て教をハ施んと志し舜水先生に就く闕里の聖廟の制度を問ひ小形を製し給ひ其後　幕府にて昌平坂の大成殿を營造ありしにハ其の小形を指出されて其制に摸擬し天下の學士瞻仰する處となハ有りしなり學校の事ハ古へ京師に大學校ありし國にも國学あり官人の子弟を教育せられしなり爭亂の世に廢して行はれず　東照宮禍亂を平げ給ふ時に至りて藤惺窩林道春等を召されて經旨を訪咨せられ自ら一貫中和經權等の義を論し給ひ續日本紀等の遺書を求て校定せしめ銅板の活字板を製して群書治要等の書

を刊行せしめらるる類を以て　東照宮の學を好し給ふ事も推て知るべし又林氏の忍岡の別莊に學問所を立ておかるるを後に其所を移して規制を廣めらる即今の昌平坂の學校なり是等の事も其本ハ皆　東照宮學を好み給ひしより淵源しかれハ　台德公及び尾張敬公の儒術を尊ひ給ひ又紀伊南龍公と我威公とハ神道を尊信し給ひ義公に至り儒術を尊ぶ聖人の教を崇奉し給ふ如く今日に至るまで臣子の身にて斯道を推弘め東照宮及び威義二公の先德をハ發揚して今此學校を設け給ふる深意に遵奉せざるべからざるなり

問上世の功烈の神少かりしに其内建御雷神を祀り給ふ事
は亮天功於草昧留威靈於玆土との義を以て祀を修し事
おきとも今弘むる所の道も天下の大道なり天下の大道
を弘めて其本を報るあるも玆土の威靈を留め給へる神
のみに限る事なきに非るを似たり
曰斯道は前にも論きしに如く天地ありて人倫あり自然
の大道ある事即ち天地の道なきい天地の初め
天照太神神器を
皇孫に授け給ひし時より忠孝の道顯きて君臣父子の大
道既に明なり　神武天皇天下を一統し給ひ橿原の

宮に即位ましまさしより君臣の禮益明あり靈畤を鳥見
山に設けて
皇祖天神に孝を申へ給ひしより父子の恩愈隆り然れ
ども天下の臣民父に事へて君にはらへ奉る誰か
天照太神ならして　神武天皇の教化を仰ぎまらむ
やされは教化は本に報ひ奉らんは
天照太神　神武天皇を祀るへきを勿論あれとも今
至尊かくしけれとも　天位に居て
日神の正胤にましまさしかは
皇祖天神を祭り給ふ事おきは海内の人同心同德すて

天朝は誠敬を盡させ其誠敬をおの〳〵
皇祖天神さへ通さ〳〵せ禮は天子は天地を祭り諸侯
も封内を祭る又諸侯は天子を祖とされ抔と申事も備き
は我納言公　皇室は誠敬を盡し東土を鎮撫して教
化を施し給ふ其本は報ずるも禮意を酌斟せらき封域
は常陸すして鹿嶋の神宮は常陸の一宮なきは此神を祭
り給ふなの神の功烈の事も史すも見えし如く
天照太神天下を　皇孫は傳へんとせらきし時國土
つゝ平かさりしは此神大巳貴神の許は使して其の地
を獻をし也しより國土安寧すして　皇孫も降臨せ

し給ふ其時は　皇孫は筑紫は降り給ひ猿田彦神も
伊勢は趣り鹿嶋の神は御事は史すも見えされとも此
時東國征討なりしと見えなり同躰の経津主の神は下総
は留りなさひ建御雷神は常陸に留りなさひ然るに常奥
の地に鹿島香取の神さへ鹿島御児の神なと多く祭らる
を以て見る時は鹿島香取の神よりして其子孫は至るま
て累世力を盡して　天朝の為は東國を綏撫し給ひ
しなる事し又　神武天皇中州を平定められし時
は建御雷神霊の劔を熊野高倉下は授く　天皇は獻
きし也りしは依て千軍の氣振起して敵を挫きて大功

と成し給へり然るに此神の功烈は東國に及ぶのみに
はあらず　天孫降臨し給ひしも　太祖の中土を
平定ましましもこの神の功烈甚大なりしは是其功天下
に及ぶ故なりされば今此神を祭り祭りて即ち東土を鎮
撫して　天朝の藩屏とあふ
天祖　太祖の德澤に報ひ奉るの義あるは士民に至
るまでおのの始に反り其本に報ひて此神を尊奉し天功を
亮し古を念ひて同心同德なるは　天朝を奉戴を
は其誠敬の處を
皇祖太神にも通ずる道理ありまして此に因て斯道を

上古より神の極を立給へる天地自然の大道なる事を
知る
天祖　太祖の忠孝の教を表に被給ひしは此神
の功居多なることを知りて其神意に隨ひ大道を天下に
明らかにして
天祖の象教を示し給へる深意に叶ふあとは即ちこの
神を尊奉するの本意なるべし然は其祭る所は一國の神
なりとも是なりして　皇室を尊ひ且大道を天下に
明らかには其功大なること此神の天功を草昧に亮け給ひ
し功烈の末光を瞻仰するの道にかなひ申べし是なり

天地の神を祀らせして此神を祀りたまふこと我公の深
意まし給ふの處かと存し奉るなり
問孔子の廟を建給つる事記文に詳なりとも願くハ初學
のためにその着實なる處を告らきらんことを乞ふ
曰唐虞三代の道ハ人倫を明にする道なりハ天下の達道
ともいふ即ち天地の大道なり愚夫愚婦といへども
知べく行ふべき道なりとも教なりとも是を知る
ものあるまれしかを人ハ禽獸に近し故に堯舜の五典を行ふ
親義別序信の教を知らしめられしより人民始て禽獸に
まぬかれし事を得たり孔子に至りて群聖人の美を集め

て大成し堯舜を祖述してより堯舜の教もいよいよ明かに
なりて後世人倫の模範も倫理即ち唐虞三代の道折衷於
此とハ是より孔子の教　神州に行はれし事も
應神天皇の御宇論語の書もはじめて傳りしより此後聖人の經
書次第に行はるゝ人々の知る處あり道ハ天下の達
道なれハ四海萬國人倫の理ハ限りなく自然に行はれ
ものを我狄を偏氣の國なれハ其教なる處邪僻なりて人
倫明らかなるなる事多し　神州と漢土とハ東海に臨め
る地勢なりて大陽の出る方に向ふ陽氣の生ずる處なり
て正氣の國なるゆへハ其教も正しくして前にも論せし如く

天地の初より五倫の教興れり　神州の古へは人民淳朴なるに自ら神明の大道に合ひ給ふも質らり文に赴くに天地の常なれは名教といふことなりて忠孝仁義等の名を立て教るありされは民多岐に迷ひ易し故に漢土にて教とする處は忠孝仁義等の様に名なるに因りて孔子の盛德を摸範として人倫を明らかにする是人に取て善とまるの義なきは欽其德資其教とは即ち是なり然るに

神聖の大道大に弘まり今日に至るまで君父に事へ臣子を養ひ夫婦兄弟朋友も和睦して禽獸に異なる事は得へ

きは偶然にあらす其本を忘れ且其偶然なる故を考へ思ふに

神聖の教の本はく孝を尊ひ人倫を明らかにして其學ふ所を實行實事に施むと

神聖を祭りたまふ所の深意なるへし

問鹿島の神は武神なり孔子は文德の聖人なり然れは神社は武夫の拜する神にして聖廟は文學の士は拜すへきに似たり今社廟ともに文武の士として同しく拜するは如何

曰今人の文武といふものも文武の藝あり古人の文武や
文武の道ありて刀鎗弓鎚等の術は武藝あり禮義廉恥を知
て士道を守り節操を勵して國家の干城となるは武道なり
り文字をよみ傳註を說き博文強記して故事を知り詩
文書筆を能くする如き皆文藝なり忠孝仁義を本として
神聖の大道に通じ國家の事體を明らかにして公侯の腹心
となるべきは文道あり藝を論ずる時は文藝と武藝や
各異なれども道を論ずるに於ては文道武道ともに車の
兩輪のごとく相離るべからず是おのづから古の道藝と
道と藝やと一つにして藝ありて道なきは契り射なるの

如く藝を却て害となるべきなり又古の六藝は禮學書數
は文射御は武なれは藝は教なり文武を兼て教るなり故
に孔子も有文事者必有武備と仰られあり鹿島の神も
武神なれとも
天祖の象教を垂て天下を照臨ましまし天功を亮け奉る
しるは文德とも申奉し孔子は文德の聖人なれとも兵を
足す事を論ずられしより夾谷の會にも齊侯の強暴を席上
に挫き三都を墮し陳恒を討ん乞れし類の事を以て
見る時は武德をも備へられしは人々知る處なりしを論
ずるに及ばれかくはあれとも文武の兼結ふつまあとも

本朝と漢土とは同一揆なれども今　神州の道を奉して西土の教を資て子弟を教へ給ふる神社聖廟を尊敬して其始を反り其本を報ずるを知らしめ文武を一致して有用の人材を成就し給ふを依て記すも文武不岐とは仰をらるゝ所なり

問文武不岐の義は粗聽く事を得たり忠孝無二の義平日無事の時も忠と孝と全く行はれ申候つとも事に變を應じ時は忠孝兩全し難きは古より人の申あとも有之候へとも無二とはたゝと申かたきと存へ申候

曰忠は父に敬するの心を取て君に事るを云ふ孝

經すも見えたり孝は愛敬の二にすして父母を養ふ愛敬と盡すは勿論なれとも身は父母の遺體なれは身體髮膚父母より受たるをのがきは其身とも父母の身は同しき事なりして是は敬するうちして身を立て道を行ふ事父母の遺體を聖人君子とあるその義なり依て天子々天下を治め諸侯は一國を治め大夫士は君に仕へて力を盡すなとと皆其身の天職を治めて即ち身を立るの孝なり故に事の變に臨て君の為に一命を捨て父母の養を闕くの類の事も時の宜に適して即ち身を立るの孝といふ又官禄を捨て父母を安んする類の孝も君の政に孝と

以て國家を治めらるゝ道も叶ひて是亦忠なるべ
き紀あるべ　何きまて忠孝兩全なる申迄に右を論ずる
如く忠孝とも愛敬を本として其本を一切なれば
天祖の教は三種の神器を授け給ひて君臣の義正し
く又三種の中にも寶鏡を
天祖の神々にて事に給ふ所にして孝道を惇くなり
と以て論ずる時は其教は忠も孝も三種の中に寓する
れば是忠と孝とは其本の一に出る事天地の初にして
其教象明なり然は忠孝無二なるべきの義に待らんかな
存じ奉る

問學問事業不殊其效の義誠に如此なる紀事に侯へ
とも今世學問なくして事業なし得るもの少かれ學
問事業といふものは學問いまだ侯ものを却て迂濶
なる事業を施さんとなれば何故に侯やや
曰古の治教一致なる國家を治るに道ひくるに德を以て
一齊くするに禮を以て其上なる政刑を以て其善惡を
賞罰をして藥劑に君臣佐使の如く政刑を以て德禮を佐
ける德禮政刑一合なる治教を施さば仁は一身にして
於て天下に施し四海の民を安きんとなる天下の大道
なれは學問といふも脩身治人の道を學ひ德禮政刑の實

事は脩行する故學問や事業と皆一致あり故ふ人を教る
ふも文行忠信の四を以てし忠信を主として德を脩め禮
樂政刑の文は學ぶ德をも脩め禮樂政刑の文をハ學ひ德
をも文をを是を實行を施す事を教る故學問ハ事業を学
ひ事業を學ふ所を行ふ即ち經語をも学而優則仕をて學
ふ所を實事を施して其用をなし學問を事業を二りをな
らさる物り後世治を教や別物をありて國家を治めるふ
を德禮や高閣を束ね刑政のみをて治免る故を世を胥吏
の世をありて聖賢の道を學ひしを少く才智さへ働きハ
濟む事ふ物を學問を儒者の私言をあり其身り老儒先生

となるを止る訓詁を學ひし者を文字句讀を終身の力を
盡して心性を說く者を詩書執禮の活用を講究を近世
太平久しきをり風俗の渝薄をいよ〳〵名を釣り才を鬪
をしむるのみをなりて講釋詩歌文章書畫の類を學ふ者
の能事や心得宗社の安危を胡越の相關かゝるを如く
一心を治を八國を治るなを〳〵先儒の口真似をして高く
標持をるのみをて事業に施を事を學を人情世
態を察を民間の利害を知らを事業を全く懸隔を
して用をなきて學館を設て人材を教育し給をふかく
の如く無用の長物を養ひ給ふへきなりて學士なり

そのも事業は施も至る實用と講究し孔門弟子德行言語
政事文學等各其才の長ける所を志るかゝて國家の用と
なるへき事を學ひしらし如く才德成就して國家の恩と報
ひんとてまつらんと志し文學と好むものも餘力を以て詩
歌文章とも學ひ意思と述へ性情と吟味するら如きも其
人の好む所を任せつゝ有り但其本とする所も神と敬し
聖と崇ひ神道も即ち聖道あり聖道も即ち神道なりと心
得て大道の本意と失はす文武の道と學ひて熟練し衆思
と集め群力と宣へ忠孝と盡して國恩を報ひ
神聖の靈も降臨ましゆきを至らん事と片時も忘る至ら

らんきれとも人材と實事を用ゆるまゝを養ひ成さん
も容易のすみやらに我濟淺陋の學をして其任を堪ゆ
きもあらに且又教と治ゆ並ひ行きて輕重別へ二川のを
の本と執り天下を率ひ申さんハ臣下れ專を為へ紀を
あらに其治教も厚事的も國君の自分紗へ為さんゆの
盛意あるまゝ〻結語を設斯館紗其治教者誰とあり
て御名を記させらきし所り是即ち義公の士臣を喻し為
ひしるも聖賢の道とハ學ひし者ハ我も亦儒者ありとの
さゝひし遺意あらんかゆをわしはうり奉るさきハ記文の
深意も國君の自らゝさゝ所あきハ我輩の口舌を

以て論説せんも憚かる事あるとも默して答へさらむも職分と疏畧なるを近られハ聊か吾子に向ふ答の多かりん無譽の臆説も多からん恐懼の念少からん吾子は更に明識の人に就て正されんかと希かつ所也

會澤安謹述

退食閒話終